



ESD世界会議の成功に向け「ガンパロー」と一致団結する
大村知事(中央)ら一穂の国とよはし芸術劇場で

ESDユネスコ世界会議PR

豊橋で三河湾保全活動など紹介 イベント

名古屋で11月開催

「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」のPRイベントが17日、穂の国とよはし芸術劇場で開かれた。同会議開催まで半年に迫ったことから、ESDとその活動内容を理解してもらうため、県内3地区で開催。「ESD」は、環境や貧困、人権、平和問題などの課題に向き合い、世界レベルで解決策を考える教育活動。

名古屋で11月に開催される会議には、日本政府ほか、ユネスコ加盟国の関係者らが出席。ESDに関する10年間の活動成果を報告し、将来に向けて議論する。この日のイベントは、政府や県、名古屋市などの関係機関でつくる実行委員会の主催。家庭や企業、地域でできるESD実践例や県内54市町村ごとの取り組みをパネルで紹介した。

三河湾の保全活動として、豊橋市西部に位置する汐川干潟の生態調査を進めてきた同市大崎小学校児童や、田原市の渥美半島・西の浜で海岸清掃に取り組み「環境ボランティアサークル亀の子隊」による活動報告なども行われた。

イベントの開催に先立ち、大村秀章知事は「たくさんの人たちに地球に優しいことを考えるESDを知ってもらい、世



界に発信する会議として成功させた」。豊橋市の佐原光一市長は「地球の営みを続けるために、地域からESD活動を盛り上げましょう」とそれぞれあいさつした。

(千葉敬也)